

ひと あい えどがわ

No.35

発行日 / 2017.7.1
創刊日 / 2007.4.10

EDOGAWA
SINCE 2004
SOUGOU-JINSEI-DAIGAKU
<http://www.sougou-jinsei-daigaku.net/>

葛西臨海公園にて

第12回 江戸川総合人生大学祭

～ 地域とともに ～

明日のためにできることを 今はじめよう

2017年7月22日(土)10:00 ～ 16:00

スタンプラリーでプレゼント進呈!!

【会場】タワーホール船堀

1階 展示ホール1・2

3階 産業振興センター

**入場
無料**



人生 地域のために自分の力を活かしてみたい。江戸川総合人生大学はそんな方を応援するために
大学 江戸川区が開設した大学です。(＊学校教育法で定める正規の大学ではありません。)

「学びに対する思い・気持ち」

13期生の声

昨年10月、希望と期待に胸を膨らませ入学した13期生。入学から9ヶ月を経たいま、人生大学への入学を検討されている皆さんへのエールとなるよう、1年次の授業と学校生活を通じて感じたこと、思ったことなど、人生大学の魅力を語っていただきます。

江戸川まちづくり学科

江戸川区本一色にて水塚(みづか)を発見。調査すると、江戸時代に洪水から生活を守るため、農家の屋敷の一部を盛土し、その上に蔵を建て、水が引くまで避難生活ができるようにした建物と判明。

これから「まちづくり学科」で身に付けるコミュニケーション能力を活かし、水塚について深く調べ、実態を探りたい。これからの講義が楽しみです。(関口昌宏)



江戸川区のことをよく知らずに長年暮らしていますが、区のことをもっと知りたいと思い入学しました。特に必修科目の「えどがわ入門」では、区の努力で水と緑の豊かな区であることを知りました。

また、小岩消防署で消火・起震車・AEDを体験し、改めて各自で災害に備える必要があると感じました。

卒業までに、より多くの事を学び、何ができるか考えて行きたいです。

(水野美樹)



国際コミュニティ学科

人生大学に通学していき第一に感じることは、学生同士のコミュニケーションが日増しに深まること。私が欠席したときには、次の授業でみなさんが病気ではないかと気遣い、温かい声をかけてくれました。入学してから数ヶ月しか経たないのに、以前からの知り合いのように接していただき、感動しました。

13期生の一員であることに誇りを持っています。楽しい大学です。私たちに続き、多くの方が入学することを待ち望んでいます。(佐々木暁雄)

江戸川区に住んで20年以上。仕事から離れ、今後の人生を考えていた矢先に人生大学を知り、まずは住んでいる地域の現状と将来を知りたいと思い入学。必須科目の「えどがわ入門」がその期待に応えてくれ、仲間・生き甲斐づくりのヒントも得ることができました。

専門科目は、東京五輪に関心があったので、2020年の活動を見据え「国際コミュニティ学科」を選びました。すべての授業内容が新鮮で、生活に充実感があふれてきました。(細川良彦)

子ども・子育て応援学科

3月3日、共育プラザ南篠崎で開催された「中学生と赤ちゃんのふれあい体験」を応援。春江中学校3年生男女34名と乳幼児・保護者30組が参加。赤ちゃんの動き一つひとつに歓声があがり、会場内は笑顔、笑顔。

生徒さんたちは赤ちゃんと直接ふれあえたことで「命の大切さ」「子どもを育てることの大切さ」を知ったことでしょう。私たちににとって初めての応援は、心に残るものとなりました。(松本政子)

カウンセリングの基礎の授業を受けた時「何か変だな」「場違いだな」と思いました。しかし、授業が進むにつれ、先生の話し方にだんだん惹かれていきました。

カウンセリングは複雑な心の中を解きほぐし、クライアント自身で答えを見つけ出すよう援助すること。

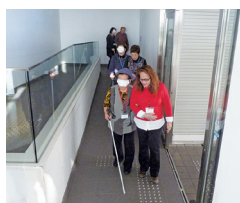
カウンセリングを学ぶことは、人間関係を豊かにする勉強ということを教わりました。(志賀直照)



介護・福祉学科

『夢のみずうみ村』浦安デイサービスセンターを見学。施設内の行動は自己決定・自己管理。坂あり、階段ありのバリアフリー施設。施設のスタッフは見守るだけ。頭と体を使うコースが一杯。図書・カラオケ・麻雀等行動は自由だが、施設内通貨を使用する。成功すれば通貨が貯まる。昼食はお好み盛付けで、102歳の男性も元気に食事。皆さん生き生き。

介護とは足し算でなく、引き算で個々の生きる力を引出す。感動です。(櫻井 昇)



介護技術の基礎の授業で良かったことは、視覚障がい者の外出介助の基本を学ぶために白杖を持って歩く体験をしたことや、障がいを持った方々が日常生活の中で困っていることなどの話を聞くことができたことです。障がい者の立場に立った視線で、普段からものごとを考えることの大切さを学びました。(松島珠美)



12期生の声

1年次に学んだことを、ボランティア活動という実践的な生きた授業の場で体験するのが2年次。卒業を間近に控え、人生大学での学びの成果を地域でのボランティア活動に活かそうと、意欲に燃えています。12期生には、心に残る社会活動体験を語っていただきます。

江戸川まちづくり学科

学校応援団では子どもたちに算数を教えるだけでなく、イベントを通して子どもたちと触れ合える楽しい時間があった。

子どもたちから招待されたイベントの中で最も印象深かったのはふれあい給食会。かわいい子どもたちとおしゃべりしながら食べた数十年ぶりの学校給食は格別の味だった。

また、学年末の最終授業では手づくりの感謝状までいただき感激!

(箱島 実)



国際コミュニティ学科

『自分たちでボランティア団体を立ち上げる』という時に、1年次に感じていたヘルプマーク、ヘルプカードの外国語表記、外国人ヘルプカードの見直しなどの解決と、日本に来て即必要になる医療・福祉分野の表現に取り組むことに決めました。

いずれは教室を確保し外国人の勉強会を開きたいと思っていますが、まずYouTubeへの配信という方法で活動を開始し成功の感触を得ています。

日本人だけでなく海外からも見てもらえるという喜びが、製作への励みになっています。

この活動が日本への移住などを考えている外国人の支援になればと思っています。

(大島なお美)

子ども・子育て応援学科

人の役に立つということは「言うは易し、行ふは難し」である。先日、江戸川みまもり隊の活動中にひとり暮らしの高齢者の孤独死に出会った。また、度々の注意喚起にも関わらず詐欺にあった人もいた。

物の豊かさの陰での心の貧しさである。

みまもり活動の必要性を強く感じ、考えることよりも「感じる」ことの大切さを思う。

感謝・感激・感動

人生大学の学生・卒業生が出来る事を、人の為・地域の為に、一歩踏み出そう!

(高橋信行)

世界でただ一つの作品となる藍染めの手さげやクリスマスツリー、グミの御菓子、うちわ等、苦勞して仕上げた時の子ども達の喜びの笑顔と歓声、親の感謝の言葉に疲れも取れて充実感を味わう私でした。

人生大学に入って学ぶ事、知る事、人と関わる事の楽しさを一層味わう事ができ感謝しています。

これからも私は子育てを応援する活動に力を入れて行きたいと思っています。

(土岐光子)

介護・福祉学科

生き甲斐とはボランティア活動にあると学んで来ました。趣味を生かし歌、踊り等で、楽しみ喜んで頂く事をテーマとしています。

歌は同窓の千倉さん創設の「歌声談話室」と、舞踏は友人と創設した「あゆみのデイサービス」の共同で活動をしています。

施設利用の皆さんと共に歌い、踊り、楽しみの笑顔を見せて下さる時、私の心が満たされます。

満足感、喜びを持つ事により、生き甲斐を感じ、又活動の継続を行う事が出来ます。

(岡田俊子)

私は社会活動体験ですくすくスクールに半年通いました。第一印象はスタッフが非常に熱心に関わり、それを支える体制もしっかりしている事でした。

叱り方も児童の目線に合わせ、何がいけなかったのかを悟らせ納得させていました。私は子供達と将棋やトランプと一緒に遊び、宿題もみました。

私自身もパワーと感動をもらい、今後も継続して子供達と関わっていききたいと思います。

(田島 智)

江戸川総合人生大学 新入生募集!

今年10月から入学する14期生を募集します。
共に学び、楽しさ・発見・驚きを実感しませんか?

【申込資格】区内在住・在勤・在学の方

【募集期間】7月10日～8月21日

【授業料】年間3万円 【就学期間】2年間

【申し込み】区役所・各事務所・図書館・コミュニティ会館などにある「入学案内」に添付されている入学願書に必要事項をご記入の上、大学へ郵送またはご持参ください。

【郵送先】〒133-0061 江戸川区篠崎町7-20-19 TEL: 03-3676-9075

募集期間に走る私のラッピンぐバスを撮ってね!



学友 北野大

卒業生のボランティア活動紹介

江戸川総合人生大学にここ応援隊

「にここ応援隊」は、子ども・子育て応援学科10期生が中心になり昨年5月“出会いのひろば”を開催したことが始まりで、現在12名の会員で運営しています。

この時117件のアンケートが回収され、その後も引き続き参加するリピーターも数多く居ることが会員の心の糧となっており、今後も無理をしない活動を続けて行きたいと思っています。

現在、篠崎文化プラザの講義室を会場として、偶数月に1回開催しており、子育て中の保護者を対象に、親子の遊び場を提供し、お互いが交流を図れるようサポートすることを目的としています。

命名の由来は、参加者に特別の制限を設けずオープンに参加できるように願い、来場者も開催者も共に「にここ」と楽しめることを目指すことから名付けました。

子ども達に教えられることが多く（発想が素晴らしい）、さらに参加者や会員が増え「お友達」になって欲しいと願っています。

（連絡先）代表：染谷紀子 03-3611-6594



「出会いのひろば」の出発点



新しいお友達

地域生き甲斐創り「芙蓉の会」

平成21年10月設立。現在2代目代表堀越良子さんを中心に人生大学卒業生8名のスタッフで企画運営しています。

スタッフ会議は第1火曜日に行い、次の活動と担当を決め、リハーサルを行い、コミュニケーションの時間を持ち、十分に理解を深めます。

第三火曜日午後1時より3時まで行う活動はタワーホール船堀会議室です。活動の前半は軽い体操、折り紙、脳トレーニング等を行います。

後半はお茶菓子进行いただきながら、懐かしい歌、季節の歌をうたい楽しく過ごし、次のメニュー等を話し合って終わります。

帰り際、ありがとう、楽しかったとの笑顔にスタッフ一同が癒しを感じています。参加した約30人の方は再会を楽しみ帰ります。

60歳以上の方、芙蓉の会はお待ちしています。

（連絡先）代表：堀越良子 03-5675-1323

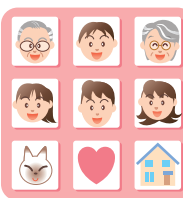


スタッフ8名



軽い体操の時間

同窓会の窓



「好きこそものの上手なれ」という諺があります。「どんなことであっても、人は好きなものに対しては熱心に努力する」（「故事ことわざ辞典」より抜粋）とされています。米Google社の「20%ルール」は、この法則をビジネスに取り入れた有名な例かと思ひます。江戸川総合人生大学卒業生の多くは社会活動に積極的に参加していますが、ボランティア活動こそ、自主的・自発的に、自分が関心を持って

いることに取り組むから成果が上がるのだと思ひます。

同窓会では、学生をサポートする団体として、このような活動をバックアップする仕組みを、これまで以上に強化したいと考えています。

同窓会会長 前田 直義（国際9期）

同窓会ホームページ <http://jinseidaidousou.web.fc2.com/>
人大ボラ連メールアドレス jindaiboraren@yahoo.co.jp

編集後記

人生大学では6月末に授業が終わり、7月は新入生募集と大学祭の季節。本号では、入学を検討している方々に、在校生がどんな思い・気持ちで学んでいるかを伝えたいと思ひ特集を組みました。

また7月22日（土）に開かれる大学祭に来ていただければより一層人生大学への理解が深まると思ひます。

編集に関わるのもあと1号になりましたが、地域の方々にわかりやすい情報紙を届けたいと思ひます。

編集長 箱島 実（まち12期）

編集：「ひと あい えどがわ」編集委員

【12期生】 榎本清一、箱島実（まち） 大島なお美、白坂敬三（国際）
一山輝江、堀田英明（子ども） 熊谷富雄、西峰正二（介護）

【13期生】 大場千恵子、柴田正美（まち） 大野正夫、黒田健司（国際）
志賀直照、松本政子（子ども） 櫻井昇、松島珠美（介護）